

中期経営計画「LOGISTEED2027」

中期経営計画概要

ロジスティードグループは、2025年度よりスタートした中期経営計画「LOGISTEED2027」の推進により、「グローバルサプライチェーンにおいて最も選ばれるソリューションプロバイダ」をめざし、さまざまな「協創」を通じた課題の解決と「価値」の創出に取り組み、持続的な成長を実現していきます。また、再上場とその先の「LOGISTEED2030」を見据えたさらなる経営基盤および事業基盤の強化を進めます。

LOGISTEED2027

- 重点施策 再上場・LOGISTEED2030を見据えた基盤強化**
- 国内3PLにおける圧倒的No.1としてのオーガニック成長の実現
 - 自動化・省力化・DXの推進による事業拡大と収益性の向上 (AI活用)
 - 一貫したグローバル戦略による強固な海外事業基盤
 - PMI・インオーガニックによる成長基盤の構築
 - グローバル物流企業水準のキャッシュ・フロー創出・資本効率の実現
 - 業界をリードするESG経営の取り組み
 - LOGISTEED2030を実現する組織・体制の構築

ロジスティードグループは 広く未来をみつめ
人と自然を大切にし 良質なサービスを通じて
豊かな社会づくりに貢献します

経営理念

経営
ビジョン

グローバルサプライチェーンにおいて
最も選ばれるソリューションプロバイダ

そしてその先へ
LOGISTEED
2030

グローバル3PL
リーディング
カンパニーへ

LOGISTEED2030

ケイパビリティを補完するパートナーとの協創で世界に挑む

強固なパートナーシップで実現する「めざす姿」

- SCM全体最適化に向けた高付加価値ソリューション
- DX推進による顧客利便性の向上と効率化
- 海外向けの一貫したバリューチェーンの強化

- 投資先行型案件への取り組み強化
- 戦略的M&Aの推進
- プラットフォームとしての地位強化
- ESG経営の基盤強化

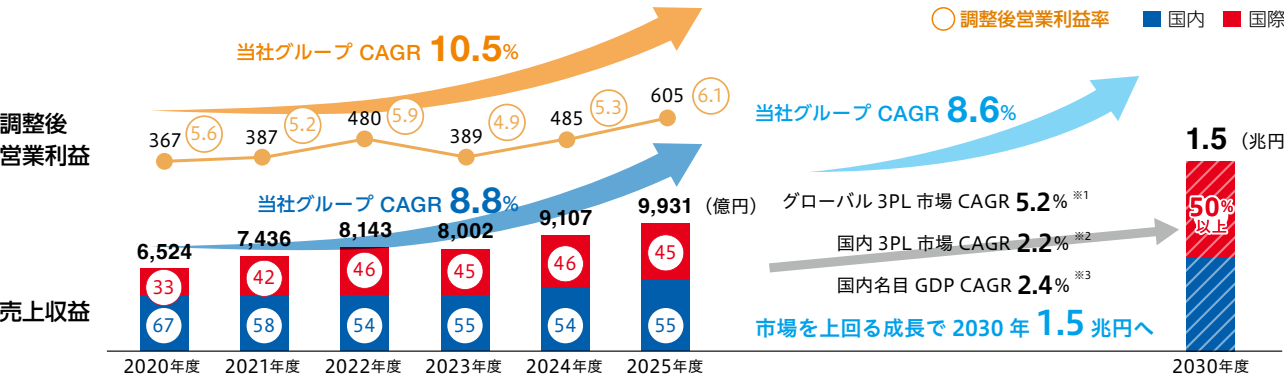
売上収益
1.5 兆円

海外比率
50 %
以上

CO₂
50 %
削減

業績の推移

2020年度から2025年度における売上収益は6,524億円から9,931億円へと拡大し、CAGRは8.8%となりました。2030年度に売上収益1.5兆円を達成するため、2025年度以降はグローバル3PL市場、国内3PL市場、国内名目GDPを上回る水準となるCAGR8.6%の成長に向けて、さらなる企業価値の向上を図ります。



出典：※1 株式会社グローバルインフォメーション「3PL：市場シェア分析、産業動向、統計、成長予測（2025年～2030年）」
※2 株式会社グローバルインフォメーション「日本のサードパーティロジスティクス(3PL)市場：シェア分析、業界動向・統計、成長予測（2025年～2030年）」
※3 IMF World Economic Outlook データベースより当社算出

経営体制の移行について

当社グループは、2026年4月1日よりロジスティードホールディングスを主体とする経営体制へと移行しました。ロジスティードを中心とする事業会社の自律性を高めるとともに、グループ全体の戦略とガバナンスを一段と強化し、中長期的な成長と企業価値の持続的な向上に取り組めます。

重点施策の進捗

めざす姿を実現するために、ジャパンカンパニー・インターナショナルカンパニー・コーポレートがそれぞれ主体的に、また相互に連携しながら、7つの重点施策を推進していきます。

重点施策 1 国内3PLにおける圧倒的No.1としてのオーガニック成長の実現

当社グループはLOGISTEED2030の実現に向けて、グループ横断でこれまで培ったノウハウや蓄積したデータ等を活用し、国内3PL No.1企業としてさらなるオーガニック成長を推進します。

グループの連携を強化した体制の確立とトップラインの拡大

国内・海外の地域軸と3PL・フォワーディングのプロダクト軸を横断的につなぎ、グループ全体の連携強化を進めています。お客様の情報をグループ内で共有・活用することで、地域・領域等の制約にとらわれずサプライチェーン(SC)最適化・高度化に向けた提案を適時かつ組織的に行っています。その一環として、地域やプロダクトを横断した専任者を設置し、お客様との関係強化・統合的なソリューション提案の加速・保守戦略立案等を推進しています。また、既存・新規のお客様における新たな事業機会の創出を進め、トップラインの拡大につなげています。今後もお客様への提供価値向上とSC全体の最適化を図り、物流効率化に取り組んでいきます。

2025年度 ソリューション事例 - お客様の物流を企画・戦略検討～運用・改善まで一貫して支援 -

顧客業種	ソリューション
外食チェーン企業	●全国5か所の物流拠点をLMS（統合物流管理システム）にて包括管理
総合エネルギー企業	●受発注業務およびSC最適化の企画/実行に向けた戦略検討の受託 ●複数物流プロバイダーの包括管理

主要KPIの進捗状況	実績
国内物流 売上収益	7.7% (直近3か年CAGR)
国内物流 調整後営業利益	12.7% (直近3か年CAGR)

重点施策 2 自動化・省力化・DXの推進による事業拡大と収益性の向上 (AI活用)

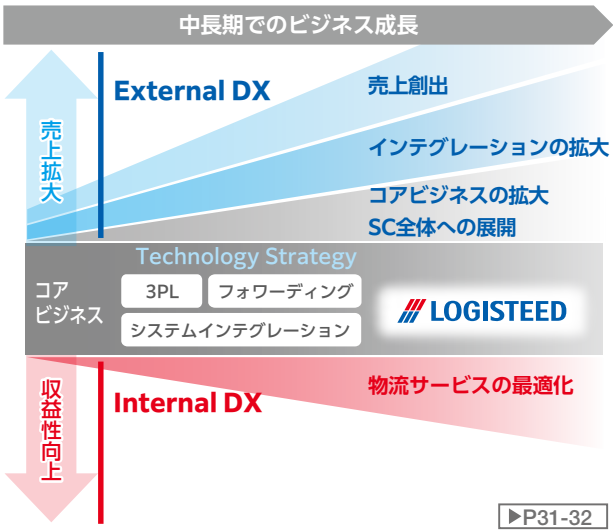
強みの一つである豊富な知見とデータに裏打ちされた技術力を活かし、生成AI等の先進技術を積極的に取り入れたうえで自動化・省力化・DXを推進することにより、一層の事業拡大と収益性の向上につなげていきます。

物流DXトータルソリューションの展開

SCMに関する豊富な知見とデータ分析を活用し、「コンサルティング」と「ソリューション」を掛け合わせたサービスを展開しています。お客様のニーズに応じて、計画段階からSC全体の最適化を支援することが可能です。また、自動化・省人化も積極的に推進しており、設備仕様や運用環境の見直しによる設備稼働率向上や、人員管理徹底による工数削減等の取り組みを実施しています。

データ基盤の整備を通じたSC全体でのデータ・KPI標準化によるデータ駆動型経営

営業情報を含むグローバルなオペレーションデータ基盤の構築、データ駆動型経営と統一KPIに基づく事業運営に向けて、フォワーディングシステムの統合、事業KPI統一、コーポレート業務の標準化を推進しています。また、AI活用により業務改革を推進し、収益性向上やトップラインの拡大に貢献しています。



主要KPIの進捗状況	実績
省人化効果人数(累計)	485人
現場改善効果額(累計)	6.69億円

中期経営計画「LOGISTEED2027」

重点施策 3 一貫したグローバル戦略による強固な海外事業基盤

組織改編やグローバルでのシステム標準化等によりOne LOGISTEEDを強化するとともに、業界・サービス・地域を軸としたグループ全体での連携により、お客様への提供価値を拡大し、海外事業基盤をさらに強固にしていきます。

グローバルネットワーク強化とフォワーディング・輸送事業の拡大

グローバルフォワーディングにおけるグループ横断での連携強化に向けた体制構築を進めています。分科会によるテーマ別の取り組み、2026年度中のフォワーディングシステム統一等を通して、海外事業の収益向上に努めています。また、グループ全体でOne LOGISTEEDを推進し、ブランド統一に向けた社名変更等を実施しています。これにより、一体的なサービスをお客様に提供するとともに、世界的な認知度向上と将来成長の実現をめざしています。2030年度の目標である海外比率50%以上に向けて、今後もOne LOGISTEEDのもと、包括的なソリューションをお客様へ提供し、さらなる事業基盤の強化、フォワーディング・輸送事業の拡大を推進していきます。



Expanded Global Business Meeting 2025におけるディスカッションの様子

重点施策 4 PMI・インオーガニックによる成長基盤の構築

M&Aにてグループ化した企業のPMIを完遂し、シナジーを創出するとともに、ターゲット市場・領域でのグローバルM&Aも検討・実行し、グローバルネットワークや事業領域の拡大とROICの向上を実現します。

M&A後の100日プランの策定・実行によるシナジーの実現

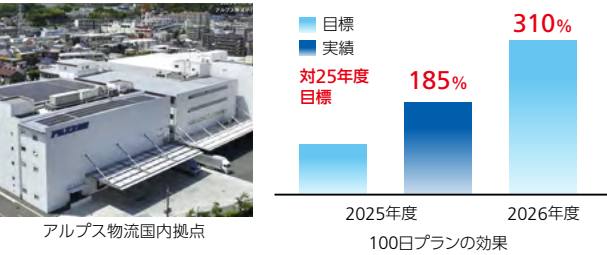
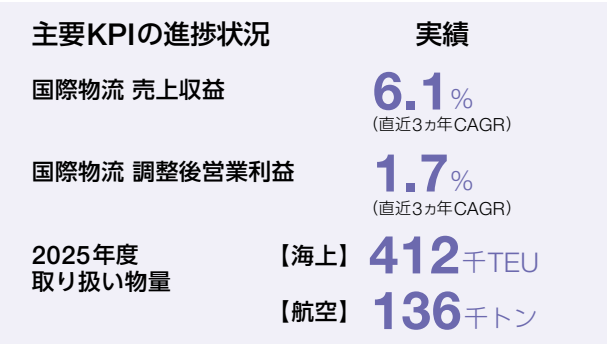
2024年にM&Aしたアルプス物流のPMIとして100日プランを策定し、取り組みを開始しました。双方の事務所に駐在員を配置し、お互いのノウハウの共有や強みの補完を図ることでグローバルネットワークや事業領域の拡大につなげています。主な取り組みとして、営業・トップラインの拡大(クロスセル)、調達最適化、間接業務効率化、協業による国内運送事業の改善を推進し、海外においても拠点統合や混載最適化をグループ全体で進めています。2025年度は目標比185%と大幅に上回る効果実績となりました。2026年度についても当初の想定を上回る効果が出ています。引き続き、国内外におけるシナジー創出、業績拡大に向けた活動に取り組んでいきます。

フォワーディング事業の統合

2026年4月にアルプス物流の国内フォワーディング機能をロジスティードエクスプレスへ統合しました。業務プロセスの標準化やノウハウの集約を進め、フォワーディング事業全体のオペレーション品質の向上と、より安定した事業運営体制の構築を図ります。

日本郵便との資本業務提携

ロジスティードホールディングスおよびロジスティードは、2025年10月6日に日本郵便と資本業務提携契約を締結しました。国内においては、物流効率の向上およびサービス品質の高度化に資する施策について、効果・マイルストーンを精緻化したうえで、順次実行に移行していきます。海外においては、日本郵便グループの国際物流事業を担う Toll Holdings 傘下の子会社に対し、当社グループが一部出資を行う方向で協議を進めています。今後はこれらの取り組みの具現化を通じて、お客様のSCを一気通貫でサポートできるサービスの構築を推進します。



重点施策 5 グローバル物流基準のキャッシュ・フロー創出と資本効率の実現

事業・管理・財務、各部門において、策定した業績向上施策の着実な実行により、グローバル物流企業水準のキャッシュ・フロー創出・資本効率につなげていきます。

アセット・ライト(▶P68)戦略によるROE、ROICの向上

アセット・ライト戦略により資本効率を高めるとともに、設備・DX・人財への成長投資を実施することで事業運営の効率化と収益性の向上に取り組んでいます。

シェアードサービス化の推進とインターナルDXによる経営の効率化

当社グループ全体において、管理部門の重複業務排除、人事・契約業務のシェアードサービス化といった施策により利益率の向上に努めています。また、AI等の最新技術も活用したDX・自動化・省力化による生産性向上やデジタル改善のグループ水平展開を促進し、業務効率化やロスコストの削減を推進しています。



▶P21-24

重点施策 6 業界をリードするESG経営の取り組み

組織・人財の強化や安全・品質強化の推進、脱炭素活動の推進等により再上場とその先のLOGISTEED2030達成の基盤を強化していきます。

日本で勝ち、世界で伸ばす組織・人財の強化

- ・次世代リーダー育成プロセスの仕組み化
- ・人事制度の進化
- ・業務のシェアード化/DX推進による組織、人財の強化
- ・LOGISTEED WAY、VC活動(▶P68)のさらなる浸透

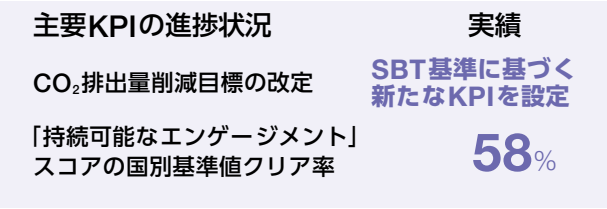
安全テクノロジーの活用と品質向上に向けた取り組み

当社グループでは、安全品質向上に向けた取り組みを積極的に推進しています。物流センターの状況を遠隔で一元管理する「安全品質集中管理センター」の取り組みに加え、2025年度はインシデントのAI検知や火災検知・発報の自動化を推進しました。また、SSCV(▶P31)等の自社システムに加え、elpis株式会社の側方巻き込み警報装置「A-CAM」といった安全テクノロジーを活用することで、事故の未然防止と安全品質向上に取り組んでいます。



国際基準に沿った脱炭素目標への改定と、活動の実践

ロジスティードは、国際的なサステナビリティ評価機関であるEcoVadis社のサステナビリティ評価において「ブロンズメダル」をグループとして取得しました(▶P39)。2025年3月にはSBTイニシアティブ(SBTi)*に対してコミットメントレターを提出し、パリ協定が求める水準に整合する温室効果ガスの排出削減目標「SBT(Science Based Targets)」の認定取得をめざしています。



※ SBTイニシアティブ(SBTi): CDP、国連グローバルコンパクト(UNGC)、世界資源研究所(WRI)、および世界自然保護基金(WWF)の4機関が共同で運営する国際イニシアティブで、独立した立場で企業の温室効果ガス削減目標の評価を行います

重点施策 7 LOGISTEED2030を実現する組織・体制の構築

プロアクティブな組織体制の構築

国内・海外ともにグループ横断で地域や事業を軸とした重複機能の統合・再編を進め、最適な組織体制を構築するとともに、構造改革を推進しています。

- ・2025年4月:ロジスティードコラボネクトをロジスティード東日本に統合
- ・2026年4月:ロジスティード東日本流通サービスをロジスティード東日本に統合
- ・2026年4月:アルプス物流のフォワーディング機能をロジスティードエクスプレスに統合

今後も、組織・体制の刷新および重複機能の統合・再編による合理化と事業基盤の強化を推進し、組織の最適化を図ることで、「LOGISTEED2030」の実現に向けた組織・体制を構築し、企業価値の向上につなげます。